

事業概要票

事例NO. 44（平成21年度発表）

事例キーワード

地域・住民主体の
景観ふるさとづくり

事業名		景観モデル地域支援事業	地域・住民主体の 景観ふるさとづくり
事業担当機関		建設交通部 都市計画課	
事業期間		平成21年度	
実施場所		山本郡八峰町峰浜水沢字手這坂地内	
事業概要	全体事業費	100万円	
	工事概要	景観や環境に配慮したふるさとづくり（ハード＆ソフト）に対する補助金（補助率4／5）	
	事業の目的	本県には、景観百選「秋田え〜どご100」にもある通り美しい景観が数多くある。それらの資源を住民と行政との協働により守り、育て、活用することで、地域への愛着や誇りを再認識し、地域の持続的な活性化を図ることを目的とする。	
環境配慮の内容	1. 実施主体	手這坂活用研究会（大高孝雄会長、会員120名）	
	2. 事業内容	①集落景観・環境整備 ②さし茅ワークショップ ③景観に配慮した看板等の作成 ④茅葺き民家の活用実験 ⑤景観保全計画づくり	
	3. 現状と課題	江戸時代の紀行家・菅江真澄が文化4年（1807）にこの地を訪ね、その風景が中国武陵「桃源」のようだと記録したことから、今日まで「桃源郷」として知られている。平成12年に無人の集落となったが、築百数十年を経た4軒の茅葺き民家と周囲の農地等が醸し出す風景はまさしく秋田の原風景である。13年に設立された活用研究会により、保全や活用の取組が行われてきたが、住人のいない茅葺き民家の傷みは激しく、農地の荒廃等と相まって存亡の危機に瀕している。	
施工の状況	当該集落の活動拠点である茅葺き民家「たいいち」の最も傷みの激しい西斜面の屋根1／3をさし茅により修復。また、耕作していない農地と家屋周辺の土地の雑草、伸び放題の樹木等を整理し、農地には菜の花を播種、周辺には桃を150本植樹した。さらに、周辺の茅場で茅刈りを実施し、翌年度に向けた大量の茅をストックした。作業は、活用研究会のメンバーをはじめ県内外のボランティアにより実施され、桃源郷の再生に向けた取組が行われた。		

図面、写真、説明

坂の上から見た手這坂集落（遠景）



家屋の裏の無耕作地（近景）



茅屋根にも雑草（近景）



事業概要票

事例NO. 44 (平成21年度発表)

図面、写真、説明

荒れ果てた農地と手這坂集落 (事業着手前)



集落の環境整備 (草刈り)



茅刈り



菜の花の播種

ボランティアと囲炉裏を囲んだ昼食



さし茅ワークショップ



大学生による植樹



平成22年5月上旬 (予想)

